

優秀賞

わたしのかべをかんがえる

福山市立戸手小学校2年 小林 恵葉

「絵が書いてあればたのしいのに。」かべをみて、つまらないきもちになった。学校のかべには、絵がかざってある。でもいえのかべは、まっ白。だからかべに、絵をかいた。

大きなハートと、かぞくの絵をかいた。とても上手にかけたので、ママに見せたら、「かべに絵をかいては、いけません」とおこられた。ママは、かいたばかりの絵をけした。上手にかけたのに、かなしいきもちになった。そのあと、ママにスケッチブックをわたされた。「かべにかいたらだめ。このかみに、上手にかけたらママに見せて。ごうかくしたらかべにかざってもいいよ」と言われた。

わたしは、絵をかいてママに見せた。ママは、「これは、なにを、かんがえてかいたの」ときく。こたえられないと、かざってくれない。上手にかけてもかざってくれないから「なんで？」ときいてみたら、「上手な絵より、おもいをこめてかいたえのほうで、たのしいきもちになるでしょう」といった。おもいをこめるといいういみが、わからなかったから、きいてみると、「じぶんでかんがえてみなさい」といわれた。

『おもいをこめる』をかんがえてみた。ママに、買ってほしいものを見てみた。ママは、わらいながら、「よくかんがえてえらいね」と、下手な絵でも、かべにかざってくれた。「なんで？」とママにきくと、「おもいをこめてかいた絵をかざったほうが、かべがよろこぶ」とわからないことをいわれた。かべがよろこぶわけのないのに、かざってある絵を見て、たのしそうなママを見ると、わたしも、うれしいきもちになった。

ママはわたしに、おもったことをするのではなく、かんがえてやるほうが、よいということを、つたえたかったのだとおしえてくれた。かべに絵をかいたことは、わるいことだったけれど、わたしのやりたいことを、たくさんかんがえることができてよかったとおもった。